

B. 寧波（11月11日）

<市域の概要>

- ・面積は9365h、人口は543万人、GDP1312.7億元、一人あたりGDPは24113元、工業総生産額は1629.7億元、外国からの直接投資は契約ベースで19.6億ドル、総合競争力では、中国で第10位。
- ・寧波は、大連・青島・廈門・深圳と同じく、早く（1984年）から開放政策がとられたため、産業基盤が整っている。現在、民営企業が全体企業の80%を占めており、活発な企業活動を行っている。
- ・現在は高速道路で上海まで3時間半かかるが、2006年の完成を目指して全長36kmの杭州湾大橋の工事が進んでいる。橋が完成すれば上海まで1時間半、蘇州まで2時間の距離となりメ리트は計り知れない。
- ・2002年の経済成長率は12%、貿易の伸びは30%となっている。2003年の1～10月の統計では、輸出は45%の増加、輸入は75%の増加となっている。
- ・寧波はイグサの産地でもあり、中国産イグサの70%は寧波で生産されている。

1. 寧波保稅区投資合作局訪問

日時：2003年11月11日（火）10：40～11：30

会場：寧波保稅区管理委員會ビル

寧波側出席者：投資合作局局長 余斌氏、副部長 張航飛氏、尹明贊氏 他

（概要説明）

- ・寧波保稅区は1992年11月に中央政府の批准により設立された国家級保稅区であり、「免証、免税、保稅」の特別政策をもつ自由貿易区である。
- ・今まで寧波に進出した日本企業は576社であり、実際の投資総額は5.5億ドル。
- ・寧波保稅区の中に進出した日本企業は10社あり、その中にはアラコ、三菱製鋼などがある。
- ・所得税率は15%である。ただし二免三減（2年間は所得税免税、その後3年間は所得税を半分免除）の優遇制度がある。
- ・土地所有権は50年間、地代は20ドル／㎡程度である。
- ・電力供給において、保稅区では電気を止めないようにしている。参考に今夏、保稅区は「停電無」だった。
- ・上海の外高橋保稅区と同様に、商社の設立も可能である。
- ・製品の国内販売も可能だが、その場合は、関税・増値税を支払う必要がある。
- ・最低投資額は10万ドルとなっている。これは上海の外高橋保稅区が最低20万ドルとなっていることに比較して進出しやすい条件となっている。
- ・寧波には13の大学（在学生は8万人）があり、人材は豊富である。

2. 寧波徳業精密模具製造有限公司 見学

日時：2003年11月11日（火） 13：30～14：30

説明：同社集団総裁 張和君氏

（概要説明）

- ・ 寧波徳業精密模具製造有限公司は香港系資本の徳業科技グループの一つで、精密金型の製造会社である。
- ・ 1万㎡の工場に、10台以上のマシニングセンターを配し、プラスチック射出成型用金型の生産をメインにしている。グループの総投資額は5000万ドル。固定資産は2.6億元。年間売上は8億元。
- ・ 1989年11月に創業し、家電・自動車向けの金型、板金、小家電を作り始めた。その後、コンピューター・電子機器向けの部品に拡大した。最近では、我々は1台の車を完成させるために300部品の金型を作っている。アメリカ、東南アジアにも製品を輸出している。富士通、日立とも取引があった。

参加者からは「CAD／CAM、三次元測定器など、設備面では充実していた」「日本に比べたら工場での工員の数が多く、人海戦術に頼っているところもあるのでは？」との感想があった。

3. 寧波宝新ステンレス有限公司 見学

日時：2003年11月11日（火） 15：00～16：00

説明：副総経理 上田治生氏、副総工師 西本忠博氏

（概要説明）

- ・ 中国にステンレスを作っている企業が少ないため、5年前に中日合弁で設立した。
- ・ 資本構成は中国方66%（宝鋼グループが54%）、日本方34%（日新製鋼、阪和興業、三井物産）である。
- ・ 設立5年が経ち、ビジネスは好調である。3年目に累損を一掃し、現在では配当を達成した。
- ・ 現在3基体制であるが、2年後には更に圧延機を追加し4基体制で年間60万トンの生産体制にする予定。単独工場では、世界一の生産量を誇っている。
- ・ 従業員は約600人で平均年齢は28歳である。2年後には1000名程になる予定。なお日本人従業員は現在5名である。生産量は17000トン／月である。
- ・ 鋼種別では、SUS304系が80%、SUS316系が5%、SUS400系が15%という状況である。
- ・ 米国向けに、600～700トン／月程度を輸出している。
- ・ 販売先の当社に対する支払いは10～20%の前金を含む現金商売である。残金が入金され次第、トラックで残りの商品を運ぶという条件である。
- ・ 今後の課題は市場の確保、原料（ニッケル）の手当て、安いマージンなどがある。

説明を受けた後、同工場の生産ラインを見学した。

<質疑応答>

Q：品質は日本と変わらないのか。

A：要望いただければ、きちんと対応できる。

Q：日本には輸出しないのか？

A：ベースを中国国内に向けているため、行っていない。



○ 寧波宝新ステンレス有限公司
上田副總經理（左）西本副総工程師（右）

4. 北侖港見学

日時：2003年11月11日（火）16：30～17：30

北侖港は中国第二の港で、2002年の貨物取扱量は1.53億トン、コンテナの年間取扱量は185万TEU（Twenty-Foot Equivalent Units）に達している。水深20m以上であり30万トン級の船舶まで接岸できる。現在拡張工事が行われており、貨物取扱量5億トン、コンテナ取扱量800万TEUを目指している。

5. 寧波市政府表敬訪問

日時：2003年11月11日（火）18：30～19：00

会場：南苑飯店

寧波側出席者：副市長 鄔和民氏、投資合作局局長 余斌氏、主任 彭朱剛氏、副部長 張航飛氏、尹明贊氏 他

（鄔和民副市長挨拶概要）

- ・ 上海経済圏で注目されている3つの都市（寧波、杭州、蘇州）の中で、寧波の規模が最も大きい。さらに寧波市は港湾設備を持つことが追い風となり、最近の5年間で5%の経済成長を遂げている。
- ・ 2006年に完成予定の上海との連絡橋が完成すれば、より便利になり、製造業にとって好条件が整う。寧波は早くから開放されていたこともあり、産業基盤も整っている。石油化学、鉄鋼、機械加工といった分野で企業を誘致し、寧波を国際的に通用する加工基地にしたい。
- ・ 環境問題にも力を入れており、我々は寧波を製造業の町だけでなく、住みやすい町にすることを目指している。
- ・ 地方政府の役目は1）経済をどのように発展させるか、2）WTO加盟後の国際ルールにどうつなぐか、3）経済発展のチャンスはどうつかむか、4）市民の生活レベルをいかに上げていくか、であり、そのためには積極的に外資誘致、教育、投資環境の改善を図る必要がある。
- ・ 寧波は大学も多く、学生数は8万人を誇っている。社会ですぐに役立つ実用力のある人を養成している。
- ・ 5年後には1人当たりGDPを現在の3300ドルから6600ドルにすることを考えている。お互い交流して、ますます発展していきたい。我々はできる限りの支援をさせていただく。

訪問後、市政府主催の夕食懇談会が開かれ、副市長はじめとした市幹部と寧波市の詳しい概要や、投資環境、市政府の優遇策などについて懇談を行った。